

◆平成19～21年度重点普及課題計画

担当者：石川貴宣・與那嶺盛次・長嶺巖・大城信弘

1. 課題名

もずく養殖安定生産対策

2. 課題選定理由

沖縄県のモズク養殖生産量は、平成18年に2万トンと過去最高の生産量を記録した。しかし、これまで生産量が安定せず需給バランスの崩れによる値崩れや値段の高騰が沖縄県のもずく振興策の妨げになっており安定生産による価格の安定が課題となっている。安定生産にむけた技術的な課題を改善することを目的とする。

3. 活動内容

1) 培養技術の普及

沖縄県では、もずくの種を培養し、希望する生産者に配布しているが、配布後の拡大培養時に調子が悪くなることもあり、そのまま種付けを行い失敗することがある。そのため、培養種の拡大培養技術及び採苗方法の普及のための巡回指導を行う。

(1) 実施地区：沖縄県全域

2) 培養種による種付け技術の改良

培養種の使用は、県内全域に普及しつつあるが、培養種を使用すると生産するもずくが細い、熟しない等の問題が聞かれるため、問題解決にむけた種付け技術の確立を行う。

(1) 種付け密度試験

種付け密度が多いと、もずくが細くなる可能性があるため、培養種を使用し種付けを行った後、種が入っていないタンクに網を移し盤状体の育成状況を比較する。

(2) 種付けタンク改良試験

種付けタンクの材質・大きさ・色の違いによる種付け状況を比較し、種付けに最適なタンクの作成・普及を行う。

(3) 養生環境の調査

モズク養殖の種付けは、ビニールハウス内で行う者（水温の管理が出来るが照度が露天

に比べ低い）、露天で行う者（照度は十分あるが水温管理が出来ない）がいるが、どれがよいのかはっきりしていないため、水温計・照度計を設置し最適環境を調べ普及する。

(4) 実施地区

種付け密度試験：八重山地区

種付けタンク改良試験：沖縄本島地区

養生環境調査：沖縄本島、八重山地区

3) 人工苗床法の技術普及

もずくは、本張り前に、苗床での芽出しを行わないと生産出来ないが、苗床に利用できる漁場が限られている。そのため、一部の生産者では、苗床の海底に敷き網を張り種付け網がすれて芽が切れるのを防ぐことで苗床場所を確保している。他地区の養殖漁場でも有効かどうか確認するため実証試験を行う。

(1) 実施地区：沖縄本島・宮古・八重山地区

4) 中層張り技術の普及

現在沖縄県で行われている主な養殖方法は、ひび建て養殖である。ひび建て養殖は安価で行えるが網の高さ調整が難しく、養殖に必要な照度を得るため使える水深が限られてしまう。ひび建て養殖より資材が高価になるが、網の設置水深を調整でき、日照不足や漁場の拡大に対応できる中層張りの技術普及を図る。

(1) 実施地区：沖縄本島・八重山地区

4. 年次到達目標

1) 平成19年度

種付け技術改良、人工苗床の実証試験、中層張り技術の実証試験をおこなう。

2) 平成20年度

平成19年度の試験結果を踏まえ、試験継続と普及を行う。

3) 平成21年度

種付け技術改良、人工苗床、中層張り技術の普及。